



国際医療支援部スタッフ



光嶋勲国際リンパ浮腫治療センター長を囲

## 国際医療支援部 杉山英二部長ごあいさつ

### 情報

近年、訪日外国人旅行者や在留外国人が増加し、これに伴い医療機関を受診する外国人患者も増加しています。広島市の統計によれば、令和2年3月現在で、在住する外国人は2万人を超え、外国人旅行者は178万人と増えています。広島大学病院においても、毎年、400人近い外国人が新患受け付けされており、今後とも増加が予想されます。そこで、外国人患者の医療サービスの充実と病院スタッフの負担軽減を図るために、令和2年5月に国際医療支援部が設置されました。スタッフは医師2名、看護師1名、事務職員1名から構成されています。具体的な取り組みとしては、院内文書や表示の多言語化、医療通訳体制の整備、日本の健康保険証を有さない患者への情報提供、収金対策などの体制整備を行っております。また、当院受診希望の外国人患者が安全かつスムーズに医療を受けていただけるように、院内の幅広い部門と連携して、対応しております。今後は日本での検診、専門性の高い治療を受けるために来日する渡航受診者に対して、海外への積極的な情報発信と診療体制の構築を行っていく所存です。

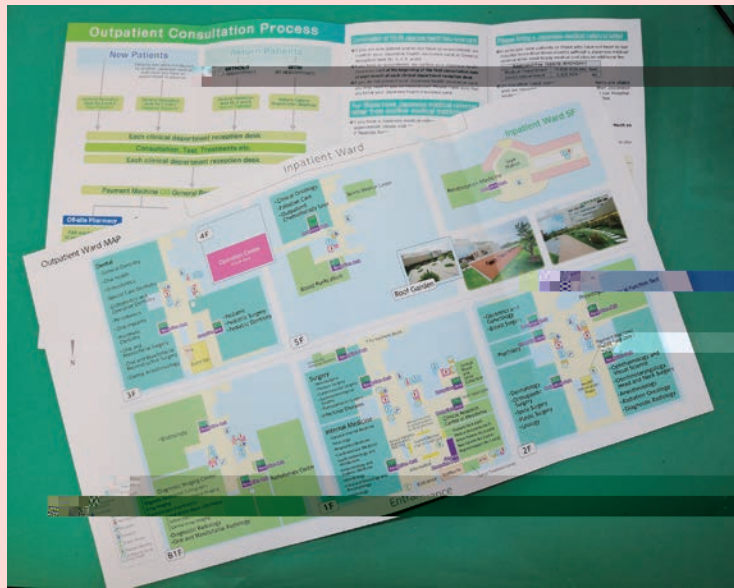
外国人患者が安全・安心な医療サービスを享受できるように、活動していきますので、今後ともご協力のほど、宜しくお願いいたします。海外へ積極的な情報発信

## ▶ 本院の活動内容

国際医療支援部開設後、すでにさまざまな反響が届いています。業務として、当院の外国人受け入れ状況をまとめ、国籍やどの診療科が多く患者を受け入れているかを、関係各所へ報告し始めました。診療科からは、「外国人患者というカテゴリーで診療していたわけではないので、自身の診療場面でいかに外国人患者と接していたかよくわかった」「意外だった」などの意見がありました。

また、開業医などから紹介を受けた外国人患者の情報は、当院「地域連携」部門が事前に確認し、通訳が必要である場合は、国際医療支援部へ連絡があり、ボランティアの医療通訳の派遣など調整を行っています。12カ国語に対応できる医療専用の翻訳機も必要に応じて貸し出し、英語・中国語のパンフレットづくりにも取り組んでいます。

海外との連携では、海外の医師から、臨床研修受け入れの問い合わせや、患者からセカンドオピニオンの問い合わせが直接メールで送られてくるようになりました。現在は、個々への対応を行いながら、必要な体制を整える方向を目指しています。



院内の案内や手続きについての英文パンフレット

## ▶ 国際医療支援部が目指すもの

開設初年度となる本年度は、医療現場(院内外)の課題を抽出し、支援体制を整えることが第一と考えています。患者目線、医療者目線での業務フローの確立、多言語化を含むサービスの向上、活用できる情報の提供、国内外の外国人患者のニーズと当院の可能な医療提供のマッチングなど、求められる役割は膨大です。国内だけでなく、海外への、「広島大学病院ここにあり」といわれるような情報発信とサービスの提供を目指して、活動の幅を広げていきたいと思えます。

2020年度国籍別受診患者数(2020年5月~8月)

